

- ・創造する生徒
- ・心豊かな生徒
- ・鍛える生徒

# 藤花だより

平成28年度10月号  
平成28年9月30日  
さいたま市立大宮西中学校  
TEL048(624)4339  
<http://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

## 「シャーク・ボーイ」から学ぶ

校長 佐藤 和男

明日から秋本番の10月になります。ご承知の通り、旧暦では10月のことを「神無月」と言います。

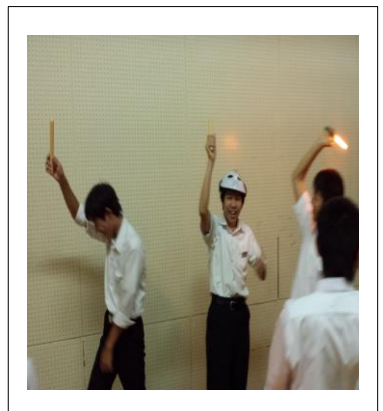
由来は諸説ありますが、その中で最も有名なのは、10月には日本国中の神々が出雲(いずも)大社に集まり、出雲以外の国々には神が不在となるため、「神無月」と呼ばれるようになったそうです。(逆にご当地の出雲では「神在(かみあり)月」というそうです。)

10月の学校の予定は、2年生が主役となる運動部の新人戦が10月1日(土)から始まります。(陸上部は9月に実施しました。)また、6組の子どもたちは、10月12日(水)～14日(金)で実施予定の楽しみな宿泊学習が待っています。

さて、9月18日(日)に閉会したリオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会。障害のある人たちが、健常者に負けないくらいの感動的な、そして素晴らしい競技を展開してくれました。アスリートとしての堂々たる姿に、私は何度も熱い感動を覚えました。そんな中私は、9月15日(木)の朝礼で子どもたちに一人のパラリンピック選手の話をしました。競泳男子のアフマツ・ハシム(南アフリカ)選手です。彼は2006年にサメに食いちぎられ、右足のひざから下がありません。兄弟でライフガードの訓練に参加していたとき、襲われた弟を助けるためサメの注意を引きつけ、代わりに犠牲になりました。しかし、彼は「サメのおかげでパラリンピック選手になれた。サメにありがとうと言いたい。」と語っています。彼のニックネームは「シャーク・ボーイ」。サメなどの海洋生物の保護活動に情熱を注いでいます。環境団体の一員として世界中を回り、サメが生態系にとっていかに重要なかを訴え、国連から「国際サメ保護者」として認められました。「サメは僕の人生に多くの機会を与えてくれた。だから、サメに恩返しをしたいんだ」と語っています。私はこの話から、とてもつらい自分の逆境を自分の人生のチャンスに変えて、前向きに挑戦することの素晴らしさを子どもたちに伝えました。

話は変わって、大宮西中では9月17日(土)に文化発表会が行われました。文化部や教科等の活動をみんなで堪能することができました。はじめの英語弁論・海外派遣生徒報告は、滑らかな英語の発表や外国でのホームステイの報告が大変興味深いものでした。6組(生活部)の発表では時間をかけて一生懸命練習した心温まるハンドベルの演奏と、元気いっぱいのダンスを披露してくれました。そして、演劇部は3年生が一人と残りは1年生だけなのですが、コミカルなせりふや熱演に会場も大いに盛り上がりました。技術部は1、2年生がパソコンでの作品等を披露し、その後に登場した3年生によるダンスは会場全体を巻き込み、先生方の飛び入りも子どもたちと一体となった雰囲気となり、とても力作がそろいました。そして、企画や当日の運営に当たった生徒会本部のメンバーも本当によく頑張ってくれました。このように、大変盛りだくさんの内容となり、子どもたちにとって思い出深い文化発表会となり、ここでも、お互いに応援しあい、協力しあい、助けあい、認めあい、学びあい等、「あい」のあふれる素晴らしい文化発表会になりました。

また、当日は多くの地域の皆様、保護者の皆様にもご来場いただき、温かい拍手とご声援をいただきました。ありがとうございました。今後も西中のために、ご支援ご協力をお願いいたします。



(技術部)